

八 研究 史

- 伴信友の万葉研究―信友書八万葉集について
― 久松潜一 国語と国文学(三二・20・2) 7
- 下河辺長流の万葉研究 久松潜一 短歌研究 (三〇・20・10) 4
- 本居宣長の書簡について 久松潜一 文学 (三一・20・10) 4
- 最近の万葉集研究 森脇朋夫 文学(三三・20・12) 10
- 若き日の賀茂真淵 三枝康高 国語と国文学 (三一・21・1) 11
- 賀茂真淵の古典会話―谷垣守日記〕並に「古事記聞書」を資料として―南 信一 国語と国文学(三三・21・9) 7
- 子規について 森原蘿月 国語と国文学(三三・10・21・10) 9
- 伝良寛書入本万葉集について 関 克己 国語と国文学(三三・22・2) 3
- 伝良寛書入本万葉集について 関 克己 国語と国文学(三三・22・3) 11
- 啄木と万葉集 小暮政次 日本短歌(二六五)

- 22(6) 4 古葉略聚鈔考 吉永 登 国語・国文(二六・22・7) 25
- 鎌倉時代奈良における万葉集研究 永島福太郎 国語と国文学(五二・23・1) 4
- 京極派と万葉との問題 谷 宏 文学(二六・23・2) 11
- 正岡子規の近世万葉研究書目 佐々木信綱 国語と国文学(五九・23・9) 3
- アララギ万葉学その他 島崎千秋 短歌研究(五一・23・11) 5
- 永言格と万葉集古義自筆稿本 松村誠一 国語と国文学(六三・24・3) 7
- 仮字万葉と見た赤人集及び柿本集一部―私家集の成立に関する考察― 後藤利雄 国語と国文学(七二・25・2) 18
- 万葉研究史ノート 武川忠一 文学(六九・25・9) 6
- 窪田万葉と土屋万葉 田辺幸雄 短歌研究(六二・26・3) 5
- 仙覚・新点の歌について 上田英夫 国語と国文学(六五・26・5) 5
- 由阿の伝について 浜口博章 万葉(二、26・10) 7
- 万葉研究一千年 高木市之助 日本文学研究(二七・26・11) 5
- 斎藤茂吉 橋本徳寿 解釈と鑑賞(七四・27・4) 3
- 島木赤彦 岡山 巖 解釈と鑑賞(七四・27・4) 2
- 正岡子規 藤川忠治 解釈と鑑賞(七四・27・4) 3
- 家庭人としての宣長 本居清造 国学院雑誌(五二・27・4) 8
- 渡順と万葉集 佐藤謙三 国学院雑誌(五二・27・4) 7
- 実朝の歌とその集について 佐々木信綱 国語と国文学(元五・27・5) 3
- 国学の伝統―その学風に於ける注意すべき諸傾向― 河野省三 国学院雑誌(五三・27・11) 14
- 三山歌の語釈史を辿る 吉永 登 語文(七、27・11) 6
- 真淵草稿本「竹取翁長歌解」について 神堀 忍 万葉(六、28・1) 4
- 露伴の万葉研究 塩谷 贊 万葉集大成月報(二、28・3) 3
- 万葉集研究の展望一 藤森朋夫 万葉集大成月報(二、28・6) 4
- 万葉集研究の展望二 小島憲之 万葉集大成月報(三、28・6) 3
- 斎藤茂吉の「古典研究」 難波喜造 文学(二七・28・7) 6
- 斎藤茂吉の人際追求 高木市之助 文学(三、

- 七・28・7) 6
 左千夫・赤彦・憲吉・茂吉 柴生田 稔 解
 釈と鑑賞(一六・八、28・8) 3
 真淵と宣長 井上 豊 解釈と鑑賞(一六・八、
 28・8) 2
 北村季吟 野村貴次 万葉集大成月報(五、
 28・8) 2
 名古屋地方の万葉研究 小栗福夫 万葉集大
 成月報(七、28・11) 4
 小泉八雲の万葉研究 塩谷 贊 万葉集大成
 月報(八、28・12) 3
 三條西実隆の万葉研究——葉抄について——
 大久保 正 万葉(二〇、29・1) 8
 野井安定の万葉研究 近藤 佶 愛媛国文研
 究(三、29・3) 12
 土佐万葉学の一資料 吉永 登 語文(二、
 29・3) 4
 赤彦 松田常憲 解釈と鑑賞(一九・四、29・4)
 2
 左千夫 扇畑忠雄 解釈と鑑賞(一九・四、29・
 4) 2
 子規 高田浪吉 解釈と鑑賞(一九・四、29・4)
 2
 宗武 橋本徳寿 解釈と鑑賞(一九・四、29・4)
 2
 宣長 大久保 正 解釈と鑑賞(一九・四、29・
 4) 3
- 真淵 井上 豊 解釈と鑑賞(一九・四、29・4)
 3
 茂吉 加藤将之 解釈と鑑賞(一九・四、29・4)
 3
 京大本詞林采葉抄攷 浜口博章 万葉(二、
 29・4) 6
 古点の成立と後撰集の万葉歌 奥村恒哉
 万葉(二、29・4) 10
 折口先生と万葉集 尾崎暢映 国学院雑誌
 (五五・一、29・5) 4
 八雲の万葉研究補遺 阪口 保 万葉集大成
 月報(二〇、29・5) 1
 西荘文庫旧蔵の岑柏集 吉永 登 万葉(二三、
 29・7) 4
 北原白秋と万葉集 木俣 修 万葉集大成月
 報(二三、29・8) 4
 拾遺集の万葉歌 奥村恒哉 万葉(二四、30・
 1) 8
 万葉集の西遷 鳥山榛名 万葉集大成月報
 (二五、30・2) 3
 万葉集略解など 朝倉治彦 万葉集大成月報
 (二六、30・3) 2
 仮字本文葉集攷 藤田寛海 国語と国文学
 (三三・七、30・7) 9
 学習院大学本 万葉集開書抄について 五味
 智英 人文科学科紀要 国文学漢字学Ⅱ
 (東大教養学部)(七、30・7)
- 万葉集の神宮文庫本と西本願寺本 上田英夫
 万葉(一六、30・7) 6
 世阿弥の万葉学 市村 宏 万葉集大成月報
 (二六、30・8) 3
 百人一首の柿本人丸の歌 山田孝雄 万葉
 (二七、30・10) 5
 戦後の万葉研究 杉山康彦 日本文学(四・二、
 30・11) 8
 賀茂真淵における意識の変革 三枝康高
 文学(三三・二、30・11) 11
 賀茂真淵とその背景——遠州地方の動きについ
 て—— 三枝康高 国語と国文学(三三・三、31・
 3) 9
 茂吉と万葉集 佐藤佐太郎 万葉集大成月報
 (三三、31・3) 4
 元暦校本万葉集卷第十七、卷第十八の書写上
 の異動をめぐって 神堀 忍 万葉(一九、
 31・4) 8
 子規における万葉主義の進展 国崎望久太郎
 立命館文学(三三、31・5) 24
 万葉拾穂抄の本文 野村貴次 国語と国文学
 (三三・六、31・6) 16
 「万葉考」自筆の一稿本 中村幸彦 万葉(二〇、
 31・7) 7
 折口博士の記紀万葉研究について——特に国文
 学者の反省として—— 高木市之助 文学
 (二四・二、31・11) 7

- 万葉集会説記―木村正辭翁の万葉研究―
 藤井貞文 国学院雑誌(三六、31・12) 8
 富士谷御杖―万葉批評史第一部(二)― 平野
 仁啓 文芸研究(四、31・12) 45
 古代歌謡の研究・序 松山亮次郎 文学研究
 (二四、32・2) 5
 古今和歌六帖の万葉歌について 大久保 正
 万葉(三三、32・4) 13
 柿本人麿集の筆写年代について 後藤利雄
 国語・国文(三六、32・7) 9
 古今集と万葉集の比較 北住敏夫 国文学
 (二七、32・7) 8
 橘守部―万葉批評史― 平野仁啓 明治大学
 日本文学会紀要(一、32・9) 32
 七夕歌と柿本人麿集 後藤利雄 万葉(二四、
 32・7) 6
 万葉人の無常観―道元研究の一助として―
 竹内道雄 芸林(八六、32・12) 12
 鹿持雅澄―万葉批評史第一部(五)― 平野仁
 啓 文芸研究(五、32・12) 28
 万葉批評史の一問題 久松潜一 明日香路
 (二二、33・1) 3
 万葉集研究の現段階 伊藤 博 国文学(三三、
 33・1) 6
 国学者伝記資料断片―下河辺長流の漢詩と荷
 田信詮追悼詩― 小高敏郎 国語と国文学
 (五三、33・2) 3
- 詩的形象の変遷と古代・中世 土居光知
 文学(三三、33・3) 10
 万葉集批評史の一問題(二) 久松潜一 明日
 香路(二四、33・4) 3
 子規における短歌革新の性格 中皓 国語
 国文(三七、33・4) 14
 「勅撰名所和歌抄」考―特に万葉歌の五代集歌
 枕との関係について― 渋谷虎雄 語文
 (二〇、33・6) 13
 賀茂・真淵の歌論 鶴殿正元 国文学(三七、
 33・7) 5
 本居宣長の歌論 三木幸信 国文学(三七、
 33・7) 4
 アララギ派 藤森朋夫 国文学(三六、33・9)
 6
 伊藤左千夫 所 弘 国文学(三六、33・9)
 3
 島木赤彦 伊東一夫 国文学(三六、33・9)
 5
 正岡子規 石山重貞 国文学(三六、33・9)
 4
 「万葉考」の校本 河野頼人 万葉(二九、33・
 10) 11
 子規と根岸派 栗山理一 国文学(三三、33・
 12) 6
 義公と万葉集の研究―釈万葉集と万葉集代匠
 記の成立を續つて― 照沼好文 芸林
 (九六、33・12) 16
 万葉集研究の現段階 扇畑忠雄 国文学(四、
 34・1) 5
 玉葉和歌集中の万葉歌覚書 浜口博章 万葉
 (三三、34・4) 13
 万葉集の外国語訳について 藤森朋夫 季刊
 文学・語学(三三、34・6) 8
 歌経標式に見られる万葉歌 久松潜一 国語
 国文研究(三三、34・7) 8
 近代短歌における万葉集享受の諸相―子規・
 左千夫・節をめぐつて― 薄井忠男 国語
 国文研究(三三、34・7) 11
 斎藤茂吉の枕詞観―万葉評釈類におけるその
 性格を中心に― 山根 巴 国文学攷(三三、
 34・7) 9
 真淵と宣長の交渉―「万葉集間目再問」をめぐ
 づつて― 扇畑忠雄 文芸研究(三三、34・7)
 9
 茂吉の「語気」論―「万葉秀歌」を中心に―
 山根 巴 季刊文学・語学(三三、34・9) 14
 万葉考の成立―狛諸成の増訂について、其の
 一― 河野頼人 国文学攷(三三、24・11) 14
 尾張の万葉研究 岡田 稔 美夫君志(二、
 34・12) 15
 水車小屋の万葉歌人 浅野梨郷 美夫君志
 (二、34・12) 2
 後撰集中の万葉歌の考察 平井卓郎 国語と

国文学(七二、35・1) 11

万葉と寛平以往―文学批評史における批評基

準の問題―久松潜一 国文学(五一、35・1) 3

万葉代匠記初稿本に関する一、二の問題

吉永 登 万葉(三四、35・1) 6

「鈴屋の大人解・万葉疑問六三卷七之巻」につ

いて 近藤 佶 愛媛国文研究(八、35・3) 8

長塚節の万葉集研究―巻十六の場合―

山根 巴 季刊文学・語学(五、35・3) 16

公任の人層観の歌論的意義 渡辺 泰 国文

学攷(三、35・5) 6

風雅和歌集の万葉歌について 渋谷虎雄

国文学攷(三、35・5) 12

真淵歌論の近世的性格 国崎望久太郎 論究

日本文学(三、35・6) 9

夏目獺麿の出版事業と万葉集―特に栗田高伴

「万葉類語抄」について― 松村博司 美夫

君志(三、35・9) 10

万葉集問目と比較してみた―粕諸成の万葉考

増訂― 河野頼人 万葉(三三、35・10) 10

子規およびその後継者たちの万葉観 土屋文

明 万葉(三六、36・1) 10

類聚古集の部類 神堀 忍 万葉(三六、36・

1) 11

万葉集抄と万葉集の錯蘭 久曾神 昇 愛知

大学文学論叢(三、36・1) 22

田中大秀の吉更考について 吉原シゲユ

美夫君志(三、36・3) 14

万葉以後六歌仙以後の歌風 橋本達雄 古典

遺産(六、36・4) 14

万葉集歌の伝承―継色紙集の場合― 金井清

一 万葉(三六、36・5) 10

「万葉考における本文批評の方法 河野頼人

季刊文学・語学(三三、36・6) 12

茂吉における「うつせみの」考―万葉の「う

つせみの」との関連において― 山根 巴

季刊文学・語学(三三、36・6) 16

仙覚新点歌流伝の一形態 浜口博章 万葉

(四一、36・10) 14

櫛曙覧と万葉調 佐藤泰道 上代文学研究会

会報(二、36・11) 1

万葉研究史誌(一)―歌経標式から秋萩歌巻ま

で― 渋谷虎雄 学大国文(五、37・1) 9

良寛の歌と万葉歌(上) 横山 英 静岡女子

短期大学紀要(八、37・3) 31

「安積山」の伝承過程 横井 博 東北大学論

集(三、37・3) 12

大学における万葉集研究 中西 進 国文学

(七六、37・5) 4

万葉集と古典教育 宮崎建三 国文学(七六、

37・5) 4

万葉集における真淵の年代未詳歌の年代判定

について 河野頼人 国文学攷(三六、37・5) 10

万葉撰者不論争の説 森本治吉 解釈と鑑賞

(二七・七、37・6) 1

万葉集成立年代論争 中西 進 解釈と鑑賞

(二七・七、37・6) 1

山柿論争 岡部政裕 解釈と鑑賞(二七・七、

37・6) 1

万葉集と「蛇性の淫」 市村 宏 上代文学

研究会会報(二、37・6) 6

伊藤左千夫と山上憶良 服部喜美子 美夫君

志(五、37・5) 11

葦屋処女の伝説をめぐって―伝説の推移とそ

の回生について―源義春 甲南大学文学会

論集(一八、37・9) 16

五帖特殊性の一考察―古今和歌六帖の万葉

歌、その重出歌を中心として― 津田英夫・

別府重治共同研究 古典研究論究(一、37・

11) 6

短歌における末尾の変遷―古今六帖の万葉歌

を中心として― 猪股勝子 古典研究論究

(一、37・11) 5

憶良認識史の稿 前篇 五味智英 香椎潟

(一八、37・12) 7

「万葉集古義」の前身 鴻巣隼雄 古代文学

(二、37・12) 8

六帖両者における万葉歌 前野貞男 古代文

学(二、37・12) 9

「万葉修辭の論」(一)―俊頼における―

山口 正 解釈(九四、38・4) 3

七里政要 書入本万葉集に見える真淵説二・

三 河野頼人 万葉(四、38・4) 14

「万葉考」卷七以下に見られる本文批評 河野

頼人 万葉(四、38・4) 14

「万葉修辭の論」(二)―古点期から次点期

へ―山口 正 解釈(九六、38・5) 3

「万葉修辭の論」(三)―清輔における―

山口 正 解釈(九六、38・6) 3

「万葉修辭の論」(四)―顯昭における―

山口 正 解釈(九七、38・7) 3

風雅集中の万葉歌統考 渋谷虎雄 万葉(四、

38・7) 8

谷川士清と万葉集 印田巨鳥 美夫君志(六、

38・6) 7

「万葉修辭の論」(五)―俊成における―

山口 正 解釈(九八、38・8) 3

「万葉修辭の論」(六)―上覚における―

山口 正 解釈(九九、38・9) 2

万葉修辭研究史における「声調」の問題

山口 正 茨城大学文学部紀要(四、38・

12) 13

猪諸成の万葉考増訂の方法をめぐって 河野

頼人 万葉(五、39・1) 12

天田愚庵 中野菊夫 国文学(九四、39・3)

6

平賀元義と橘曙覧 松村英一 国文学(九四、

39・3) 5

「万葉集古義」と「巧者學術」―封建規範の矛

盾とその自覚過程― 鴻巣隼雄 上代文学

(一六、39・6) 6

「山田守醉書入古万葉集」について 石井庄司

上代文学(一六、39・6) 5

万葉歌風と玉葉歌風 久松潜一 美夫君志

(七、39・6) 4

「日下の直越」説に対する疑点数條 奥野健治

万葉(五、39・7) 13

茂吉における赤人研究とその意義(上) 山根

巴 国文学攷(三、39・11) 13

九 雑

戦後における国文学界展望(総説および古代

文学) 近藤忠義 文学(一五・三、22・12)

15

万葉集研究の課題―最近の研究に關聯して―

久松潜一 文学(三・七、27・7) 8

飛鳥寺の万葉歌碑 辰巳利文 万葉集大成月

報(三、28・6) 1

一人の普通人と万葉集 なかのしげはる

万葉集大成月報(三、28・6) 3

万葉遊歩 神西 清 万葉集大成月報(二、

28・6) 3

吉野の万葉歌碑 武田祐吉 万葉集大成月報

(二、28・6) 1

飛鳥寺の万葉歌碑 辰巳憲之 万葉集大成月

報(三、28・6) 1

無題 無常清佐 万葉集大成月報(四、28・8)

4

野口の万葉歌碑 市山盛雄 万葉集大成月報

(一六、28・10) 1

折口先生と万葉学 高崎正秀 万葉集大成月

報(一六、28・10) 4

御物拝観記 小島憲之 万葉集大成月報(七、

28・11) 2

天理図書館蔵 万葉集関係書籍展覧会目録

中村幸彦 万葉(三、29・1) 7

万葉画集の思い出 井上三綱 万葉集大成月

報(九、29・2) 2

和歌研究資料要覧 木俣 修 解釈と鑑賞

(一九四、29・4) 10

幸福な万葉学を更に幸福に 折口信夫 上代

文学(四、29・7)

万葉集研究文獻目録(上) 徳武・高橋 文学

研究(日本文学研究会)(六、29・10) 5

万葉集研究文獻目録(下) 高橋・徳武 文学

研究(日本文学研究会)(七、30・2) 7